



防災で新たな地域の 枠組みを育む



京都府京都市東山泉ぼうさい連絡会
事務局 樋口 博紀

1 背景

京都市東山区の南に位置する一橋学区・月輪学区・今熊野学区（以下「元学区」）にあった3小学校と中学校は、子供たちに豊かな教育環境を与えるため平成26年に統廃合され、新たに小中一貫校「東山泉小中学校」が開校しました。以降、子供たちは学校生活の中で元学区の枠を超えて交流を深め、地域コミュニティを育んでいます。

しかし、地域活動は長く続けてきたそれぞれの風習もあって、枠組みを変えることなく元学区単位での活動を継続しています。開校から月日が経過するなかで子供やその親世代をはじめとする若年層と現在の地域役員を担う中高年層の間で「地域」の捉え方に違いができることで地域活動に生じる影響を危惧し始めました。

加えて、高齢化により地域役員の担い手不足が深刻化していることにも危機感を抱き、①元学区の枠組みを超えて防災活動ができる新たな体制づくりと、②地域の一体感を高める「地域の集合場所※」プレートづくりに取り組みました。

※ 地震時に安否確認や救助活動を実施する拠点として町内毎に定めた場所

2 元学区の枠組みを超えて地域が つながる新たな活動体制づくり

令和4年度からそれぞれの自主防災会に属する役員が集い、地域活動のあり方や地域防災力の更なる向上につながる取組みに

ついて議論を深めるなかで、ひとつの学校に通う子供たちが生活するすべての地域が安全であるためには、地域活動においても日頃から密に連携する必要があることを共有し、地域特性に応じた元学区単位の活動は継続しつつ、防災上の課題解決に向けた一体的な取組みや連携した活動が行えるよう、元学区の枠組みを超えた新たな体制づくりを進めました。

体制づくりにあたっては、区役所、消防署など行政機関の協力も得て、東山泉小中学校の開校から10年の節目にあたる令和5年5月に新たな自主防災組織「東山泉ぼうさい連絡会」を設立し、防災訓練を合同で行うなど新たな地域活動をスタートさせました。



新たな体制づくりに向けた協議の様子

3 地域の一体感を高める「地域の 集合場所」プレートづくり

地域課題を共有するなかで、コロナ禍による地域コミュニティの弱体化や自治会離れの進行によって、新たに移住してきた方を中心に「地域の集合場所」の存在を知らない住民が増加していることに懸念を抱く

声が多くあったことから、東山泉ぼうさい連絡会の活動として110町内すべての「地域の集合場所」に統一のプレートを設置することにしました。

プレートデザインは、地域内に学舎を構える京都女子大学に協力を依頼し、学生が描いてくれたものから、住民や地域内に通学通勤する方等による投票で決めることにし「地域の集合場所プレートデザイン選挙」を開催しました。

WEBサイトを用いた「デジタル投票」と地域イベントの場を活用した「アナログ投票」を両立することで、子供から高齢者まで誰もが参加できるよう配慮し、地域内にポスターを掲示するだけでなく、全町内へのチラシ回覧や小中学校から子供にもチ

ラシを配布してもらい広く周知を図りました。

また、清水焼の陶業で栄えた地域特性を踏まえて、プレート素材は、地元陶業者によって1枚1枚手書きで色付けし焼き付けた「陶板製」にしました。多くの方が関わって完成したプレートは、町内会の協力により令和6年上半期に、すべての町内に取り付けることができました。



地域の集合場所に設置した陶板製プレート

4 おわりに

少子高齢化が進み地域役員の担い手不足が深刻になりつつあるなか、旧態依然の枠組みを超え、住民同士が支え合い防災活動を継続できる体制が構築できたことは、今後も災害に強いまちづくりを推進していくうえで、大きな意味を成すものと期待しています。

また、住民のみならず地域に関わる多くの人々の協力によって、地域の集合場所に唯一無二のプレートを取り付けることができました。プレートがあることで有事だけでなく、日ごろから住民が集い、井戸端会議が繰り広げられるような「地域の集合場所」になることを願っています。



防災訓練会場で実施したプレートデザイン選挙



プレートデザインを考案した学生に
当会会長から記念品を贈呈